

なかの

NO.1916 区報

中野区役所
電話 03-3389-1111(代表)
所在地 〒164-8501 中野区中野4-8-1
ホームページ
<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

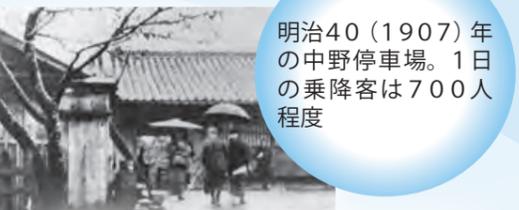
10/20

平成26年(2014年)
毎月5日・20日発行

特集

東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点を目指して 中野駅周辺まちづくりを進めています

今年で開業125周年の中野駅。時代とともに駅もまちも姿を変えてきましたが、中野駅周辺のまちづくりが区全体の活性化に大きく関わることとは今も昔も、そして未来も同じ。表紙では南口の変遷をたどってみましょう。



平成36(2024)年以降、中野2丁目の再開発とあわせて南口駅前広場整備などが完了すると、より安全、便利に。将来、中野駅周辺の各駅前広場の合計利用者は、約48万人と想定されています

- 5 ページ 区からのお知らせ
- 8 ページ 情報スクエア
(公共機関・民間団体からのお知らせ)
- 10 ページ 高齢者・介護情報
- 13 ページ 子ども・子育て
- 15 ページ 健康・福祉
休日当番医・当番薬局 ほか

☆南口だけでなく、駅周辺各地区のまちづくりに向けて、現在検討を進めています

都市基盤整備の方針 ～魅力ある中野の玄関口としてまちをつなぎます～

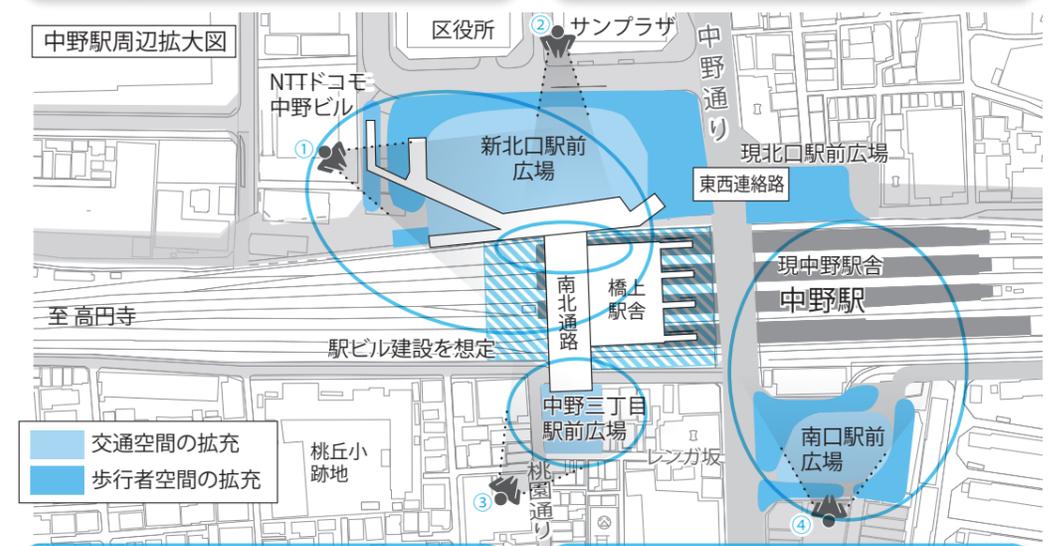
①新北口駅前広場

中野駅北側のバス・タクシー機能を確保するため新北口駅前広場を新たに整備。また、南北通路と広場をつなぐ高上げデッキを整備



②中野駅西側南北通路・橋上駅舎整備

線路上空を南北につなぎ、回遊性を高める南北通路を整備



③中野三丁目駅前広場

中野駅西側の新たな玄関口として、南北通路とつながる歩行者専用の広場を新設



④南口駅前広場

自動車交通空間を拡張し、バス降車場とタクシー乗車場を分離して確保。歩行者空間も拡充



○鉄道事業者と協定を締結しました

6月20日、中野駅西側南北通路・橋上駅舎の整備(上記②)について、区、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)、東京地下鉄道株式会社(東京メトロ)の三者で、整備に関する基本協定を締結しました。また、9月30日には、区、JR東日本で基本設計協定を締結。今後、区とJR東日本で設計作業を進め、平成32年の中野駅西側南北通路・橋上駅舎の供用開始を目指し、整備に取り組みます。なお、JR東日本は、これらと一体的な駅ビルの建設(上記の図中 部分)を予定しています。

☆「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver.3」や各計画などの資料は、区ホームページでご覧になれます

現北口駅前広場や東西連絡路の整備(第1期整備)は平成24年6月に完了しました。今後は、平成26年3月に改定した「中野駅地区整備基本計画」に基づき、今年度中に必要な都市計画の決定・変更を行い、同32年ごろ完了予定の第2期整備、同36年以降完了予定の第3期整備を進めていきます。

中野駅周辺まちづくりを進めています

中野駅周辺は、中野区における行政・経済・交通の中心であり、区全体を「持続可能な活力あるまち」へけん引する役割を担っています。区は、「中野駅周辺まちづくりのビジョン」に基づき、「中野駅周辺まちづくりのビジョン」に基づき、各地区的個性に合わせたまちづくりを展開し、暮らし、働く、学ぶ、楽しむといった多様な都市機能が融和し、誰にとっても便利で、環境や安全にも配慮した価値ある新しい都市空間の形成を進めることとしています。

今号では、各地区における現在の取り組みや検討状況についてお知らせします。

☆各イメージ図は、今後の検討により変わる可能性があります。

中野駅周辺まちづくり担当の9階
TEL 03(2260)8090 FAX 03(2260)5090

各地区の取り組み・検討状況

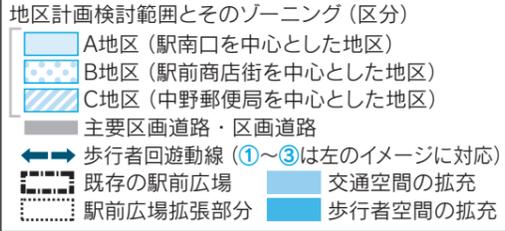
区役所・サンプラザ地区
平成26年6月に「区役所・サンプラザ地区再整備基本構想」を策定。平成27年度までを事業構築段階、同28～35年度を再整備事業実施段階として完了を目指し、再整備事業のあり方を検討。

中野駅地区
中野駅西側南北通路・橋上駅舎整備等の事業化に向け、都市計画手続きを予定。

中野三丁目駅直近地区
中野駅西側南北通路の受け口となる中野三丁目駅前広場整備や土地区画整理事業の事業化に向け、都市計画手続きを予定。

中野駅南口地区
中野二丁目地区の再開発による南口のにぎわいの核の形成や南口駅前広場の拡張整備を実現するため、「中野駅南口地区まちづくり方針」を作成し、関連する都市計画の決定を今年度に進めます。

中野駅南口地区



再開発の周辺地区では

再開発を契機に、商店街のにぎわい形成などのまちづくりを進めます。

《図中のC地区》中野郵便局を中心とした地区》
一体的な土地の合理的かつ健全な高度利用を誘導

●歩行者空間やオープンスペースを創出し、安全で快適な歩行者ネットワークを形成

《図中のB地区》駅前商店街を中心とした地区》
建物の更新(建て替え)にあわせた商業・業務機能の更新

●安全で快適な歩行者空間やオープンスペースの創出

再開発地区《図中のA地区》では

駅南口を中心としたこの地区では

●市街地再開発事業等による面整備を進めます

●南口駅前広場の拡張整備や広場空間の確保

●駅前立地を活かした、土地の合理的かつ健全な高度利用を誘導

●商業・業務・都市型住宅など多様な都市機能が集まる、にぎわいの核を形成

●駅から周辺への回遊性を高める、ユニバーサルデザイン(※)に配慮した東西南北の交通動線の整備

※ユニバーサルデザイン＝障害のある方、高齢者、子ども、妊婦や外国人など、誰もがやさしく快適に利用できるよう、設計に配慮が行き届いたデザイン

再開発地区内の人工地盤で、高低差のある地形を処理

東西方向に走る千光前通りは、勾配が急な坂道となっています。そこで、再開発地区内に人工地盤やエレベーターなど、駅前からのバリアフリー動線を整備し、誰もが安全で快適に移動できるようにして駅周辺の回遊性を高めます。

南北方向の新たな交通動線を整備

千光前通りから太久保通りに向けての南北方向も高低差があるため、それを処理する新たな主要区画道路を整備します。

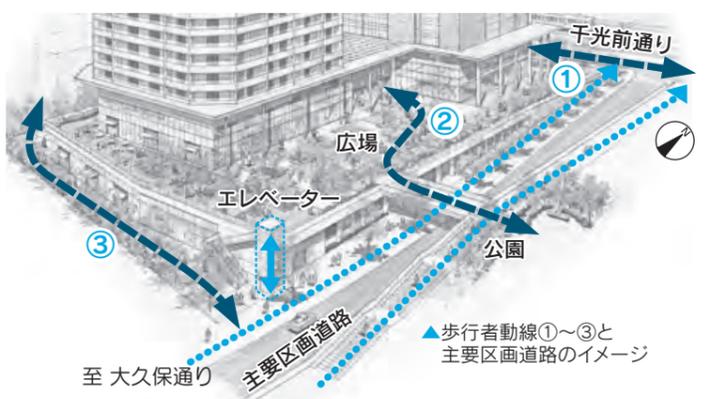
再開発の施設建築物は

2階レベルに人工地盤、その上下に商業施設を配置。駅前広場から、ユニバーサルデザインに配慮した歩行者動線を整備します。

高層部は、業務棟(北側)と住宅棟(南側)で、南口の新たなにぎわいの核を形成します。

また、人々の憩いや交流の場、災害時の緊急活動の場となる広場や空間、回遊動線を整備します。

なお、東京都住宅供給公社中野住宅は、再開発地区内の南側に敷地を移して、建て替えます。



中野四季の都市
中野四季の森公園やオフィス・大学等から成る新しいまちが完成。引き続き、区有地(区画街路1号の北側)の活用方法を検討。

中野四季の都市(南部のみ表示)

団町地区
団町東地区において、市街地再開発準備組合でまちづくりを検討。

詳しくは4ページへ